

あせらず、狙いを定めよ！

デービッド・B・バーグの著書からの編集

ある日、妻と私は急いで家に戻る途中、通り沿いにきれいな石塀を見つけた。それで、そこに座って、しばしそこからの眺めを楽しむことにした。すると、こんな考えが浮かんだのだった。

一杯のワイン、散歩、会話、ドライブ、景色、食事、抱擁・・・どれ一つをとっても、急いでいては楽しめない。神はめったに急がれない！ 赤ちゃんを創るのにも、花や木を創ったり、夕焼けを空に描いたり、一枚の葉っぱを創るのにも時間をかけられる。

私は少年の頃も、丘に座ってよくそんなふうにしたものだ。そして、万物は何を意味しているのだろうかと考えた。すべてのものが何かを物語っているように思われた。

スピードは殺す。急いでいては事を仕損じる。忍耐には信仰がいる。急いでいると、色々見逃したり、忘れたり、なくしたり、すぐに疲れたりする。あせって結婚するなら、じわじわと後悔する。一分を惜しんで命を失うこともある。ゆっくり行ったほうが、より早く目的地に着く。少なくとも、確実に着く。たとえ時間がかかっても、着かないよりはましだ。そして、跳ぶ前に止まって見よ、跳ばなくて済むかも知れない。

私は若い頃、陸軍におり、射撃演習をしたものだ。演習では、一瞬見えたかと思うと、すぐに消える標的が使われていた。兵士の多くは標的が消えることに気をとられ、速く撃とうとあせって引き金を引くため、ライフル全体が揺れて、結局、的を外していた。しかし、私は確実に撃てるという自信が持てるまで待った。時間をかけて肘を固定させ、ライフルをしっかりと構え、的を正確に狙い、引き金をゆっくり握り締めたのだ！ だから、「名射撃手」と呼ばれた。あせらないで、ゆっくりしなさい。そうしないと、的をはずしてしまう！

「ローマは一日にして成らず！」 私がある事を成そうとあせっ

ていた時、神は私に、家を建てるのと同じく、物事を成し遂げるには時間がかかると言われた。「まず土台をしっかりと築き、それから煉瓦の上に煉瓦を、石の上に石を一つ一つきちんと積んでいき、モルタルで固めるのだ。急いでではない。急ぐなら壁が崩れてしまう。確かな骨組みができてから屋根を作り、それから左官やペンキ屋、そして最後に仕上げ工が来て窓や戸を取りつけ、天井や床を張る。そのような家は頑丈で長持ちする。」

だが、ささっと建てられた粗雑な家もある。いんちき業者は冗談半分にこう言う。「まあ、倒れる前に人が逃げ出せるくらい頑丈さ。」嵐の時に倒れ、人が下敷きになるのはこの類の家だ。マイアミの大ハリケーンの時、私は何千もの家がつぶれたのを見た。そして何千もの人々が犠牲となった。

どんな強風にも動じない、堅固な建物の中にいるなら、あなたは嵐のさ中であっても心に平安を持つことができる。良い建物は微動だにせず、もちろん嵐で飛ばされたりはしない。「人生という家」にも、同じことが言える。だから、あせらないで、しっかりと握り締めよ！ そうしないとあなたは的をはずす。そして、神の的をはずすことは罪なのだ。

スピード競争

モーセは、エジプトで奴隷にされていた同胞を解放しようとした時、最初はあせった。そのためエジプト人を殺してしまい、自分の民を救うどころか、命からがら逃亡する羽目になった。しかし、40年にわたって荒野で忍耐強く羊を牧している間に、神の声を聞いて過ごし、自分の衝動ではなく、神の声に従うことを学んだモーセは、ついにエジプト大脱出という大仕事に取りかかる心の準備ができたのだ。ゆっくり、しかし確実に！

ところが、民を脱出させた後、モーセは山上で40日間過ごしてやっと神からの十戒の言葉を賜ったが、ほんの一瞬の怒りから、その十戒が記された板を壊し、すべてを失ってしまった。そのため彼は再び山に戻って40日間を過ごさねばならなかった。あせったために2倍の日数がかかったのだ。

(出エジプト32-34章)

イソップ物語では、カメが勝ち、ウサギはゴールに到達することもなかった！ 私の妻は、よく私にこう釘をさしたものだ。「あなた、今日は『近道』をする時間の余裕はありませんよ。」というのも、妻は、私がいわゆる近道を行き出したら、たいてい途中で道に迷い、余計に時間がかかることを知っていたからだ。

さて、妻も私がすぐ返事をしない時にイライラしたものだ。しかし、正しい答えを返すには、考え、祈る時間が必要だ。即座にべらべらと喋るのは誰にでもできるが、実際に正しい答えを言っているとは限らない。聖書には、「語るにおそく、怒るにおそくあるべきである」(ヤコブ1:19)とある。だから、ゆっくりやりなさい。その方が楽しさも増し、人生はより豊かになる。

スピードを競い合うのは人の常。ゲームやスポーツでも、競い合うことは楽しみの一つです。しかし今では楽しみの枠を超えて、交通機関のスピード技術や宇宙開発、技術開発を競い、「社会への貢献」や「便利さ」の名のもとに、成功と名誉が争われています。そのスピードは自然の域を超え、大きな危険をはらんでいます。

しかし、神はそのようなスピード競争には参加されていないようです。今でも一日は24時間、一年は365日、その自然の摂理を崩すことはできません。人間も動物も、それに合わせて生きています。地球はずっと同じ速さで回っていますし、人間や動物が成長するスピードも変わっていません。

それなのに人は、不自然に植物や動物を速く成長させたり、間をおかずに卵を産ませたりします。そのうち、「時間を増やせないなら、時間の無駄を省こう」と、人や動物が睡眠を取らずに済む方法を開発しようとするかもしれません。

このような行き過ぎには「副作用」が伴うことでしょう。神が一定のスピードを指定して造られたのに、人が勝手に変えようとするなら、恐ろしい結果になりかねません。物事を無理に早回しするなら、何かが狂い始めます。それは、うまく噛み合っている精巧な時計なのに、幾つかの歯車をスピードアップさせて、時計を壊してしまうようなものです。

デービッド・バーグはこう言いました。「神は、ある特定のスピードを好まれる。必要なら早く動かれるが、普通は物事がゆっくり動くことを好まれるようだ。急ぐことは悪魔のビジネスであり、悪魔は常に人々をあせらせ、世界中をどンドンスピードアップさせようと躍起になっている。悪魔こそ、性急さの張本人だ。」

物事を本来のペースより速めるなら、危険なことが起きたり、バランスが崩れたりします。人類はすでにその愚行によって自然界のバランスを崩し、地球の危機に直面しているのです。このようなスピード競争を続けるなら、地球環境だけではなく、人類の健康と心のバランスも崩れてしまうことでしょう。

また、スピードを上げすぎることは、物事本来の良さも損ないます。試しに大好きな音楽を早回して聴いてみてください。どうですか？ どんなに素晴らしい音楽でも、そんなことをしたら楽しめないでしょう？ 映画も本も、見るべきスピード、読むべきスピードというのがあります。沢山見聴きしたいからと早送りにして詰め込むなら、ゆっくり味わうこともできず、スピードを上げ過ぎれば意味が分からなくなってしまいます。

現在、多くの物事が意味を成さず混乱しているのは、あちこちでスピードが上がり過ぎているからではないでしょうか？